

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する。

【年間目標】

- ① 適切な言葉遣いの徹底
- ② 良質なサービスの提供
- ③ 家族との連携
- ④ 地域との連携
- ⑤ 目標稼働率97%を目指す
- ⑥ 経費削減を図る

【実践計画】

- ① 適切な言葉遣いの徹底
 - ・気持ちを込めた、丁寧語を使用する。
 - ・相手が不快を感じないトーンで話す。
 - ・特別な理由で言葉遣いを崩す必要がある場合は、ケアプランに記載し、説明をした上で、同意を得る。
 - ・職員同士、お互いに注意し合える環境を作る(毎週のミーティングで振り返る)。
- ② 良質なサービスの提供
 - ・食事、排泄、運動、水分、口腔ケアを中心に、自立支援に向けた生活支援を行う。
 - ・認知症状の状態確認を定期的実施。(アセスメントシート活用)
 - ・毎月のケース会議において、ヒヤリハット及び事故の検証を行う。
(リスクマネジメント)
 - ・感染症対策(インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒等の予防と発生時における対応の整備および勉強会開催)
 - ・健康管理の実施(毎日のバイタル測定、定期健康診断)
 - ・定例ミーティング(週1回)及び会議(月1回)開催を通し、職員全体において情報の共有化と統一したケアの実施。
 - ・入居者様及びご家族のニーズに沿ったサービス計画書の作成(3ヶ月毎)、計画書に基づいたサービスの実施。
 - ・掃除や洗濯など家事における利用者一人一人に合った役割の提供。
 - ・職員のスキル向上のため、勉強会年間計画、個人年間目標を立て、計画的に職員教育を実施。
 - ・第三者評価、自己評価を年1回実施し、サービスの評価を行う。

③ 家族との連携

- ・ 行事開催時、ご家族への参加呼びかけを行い、交流の機会を持つ。
- ・ 定期的（6ヶ月毎）にサービス担当者会議を開催。（個別）
- ・ 年2回家族会を開催。

④ 地域との連携

- ・ 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域への情報の開示および情報交換を行う。
- ・ 地域交流や社会資源の活用を通し、地域を基盤とした生活が継続できるよう支援する。（地域行事への参加、ボランティアの導入）
- ・ 地域ケア会議、ふれあいのまちづくり協議会、グループホーム連絡会への参加。
- ・ 地域の清掃活動などを通じ、地域貢献に取り組む。

⑤ 目標稼働率97%を目指す

- ・ 異常の早期発見、早期治療により入院者を減らす。
- ・ 待機者の状況確認を定期的に実施し、スムーズに入居へ繋げる。
- ・ 地域のケアマネジャーとの連携を密にし、待機者を増やす。

⑥ 経費削減を図る

- ・ 定期的に水光熱費や食材費を提示し、職員全員に費用に対しての意識付けを図る。
- ・ 備品、消耗品購入に関し、数社の販売価格を確認し費用削減を図る。
- ・ 物品購入、使用状況を毎月確認し、無駄がないか定期的に評価。
- ・ 季節に合わせた空調の設定温度、照明の点灯時間を決め、無駄がないようにする。